

(昭和 26 年 12 月寄稿)

## 文 献

- 1) C. M. Johnson: Iron Age. 1934, 134, July 26 10.
- 2) U. S. Steel Corp., Sampling and Analysis of Carbon and Alloy Steels, 1938, 287, Gmelins Handbuch der Anorg Chemie, 1939, Fe[F] I 139.
- 3) B. E Cohn, Chemist Analyst, 1937, 26, No.1 10. Gmelin, ibid., 140.
- 4) 早矢仕功, 胡田優, 鐵と鋼, (1939, 昭和 14), 25, 1035. 鋼中窒素の存在状態に関する研究(第 1 報). 尙燃焼法による鐵鋼中窒素分析方法は本邦では前田六郎氏(鐵と鋼, 昭和 10, 21, 22)の研究に始り學振で研究され, 海軍技術案(19 委—1433, 昭和 19 年)に決定した.
- 5) 俵國一, 鐵と鋼, 1936 (昭和 11 年), 22, 837. 學振 19 小委の鐵及び鋼窒素分析法について.
- 6) T. R. Cunningham, H.L. Hammer, Ind. Eng. Chem. Anal. Ed., 1939, 11, No. 6, 303. Determination of Nitrogen in Stainless Steel.
- 7) H. Kempf, K. Abresch, Arch. Eisenhüttenwes., 1939. 13, 419. 普通鋼及び特殊鋼中の化合窒素の定量. 試料 7g とり残渣を  $K_2SO_4$  15g +  $H_2SO_4$ (比重 1.84) 30cc に分解する. H. Kempf, K. Abresch, ibid., 1940, 14, 255. 鋼中窒素迅速分析法. 試料 3.5g とり残渣を  $CuSO_4 \cdot 5H_2O$  10g 又は粒狀金屬 Se 0.2g +  $K_2SO_4$  10g +  $H_2SO_4$  (比重 1.84) 20cc に分解する.
- 8) 田澤敏次郎, 永岡直, 學振 19 小委報告, 19 委 542, 昭和 15 年, 6 月, 特殊鋼中の窒素分析方法について(残渣處理法). 田澤敏次郎, 永岡直, 學振 19 小委報告, 19 委一, 昭和 15 年 10 月. 特殊鋼及び銑鐵の窒素分析について.
- 9) 小林佐三郎, 小松文彦, 19 委 1054, 昭和 17 年 12 月(日本製鋼), 2. 鐵鋼の窒素分析方法の改良
- 10) 田澤, 永岡, 19 委 886, 昭和 17 年 2 月, 合金鐵窒素分析方法案.
- 11) 大倉與三郎, 日本鐵鋼協會第 39 回講演大會, 昭和 25 年春季講演 13, 銑鐵中化合窒素分析法の研究(第 2 報).
- 12) 田澤, 永岡, 19 委 1158, (昭和 18 年 4 月), 鐵鋼の窒素分析に関する實驗(その 4)
- 13) J. L. Hague, R. A. Paulson, H. A. Bright, J. of Research of the National Bureau of Standards, 1949, 43, Sept. 201-207. Determination of Nitrogen in Steel.
- 14) Gmelin, ibid., 139, P. Klinger, Arch. Eisenhüttenw, 1931~1932, 5, 29; S. A. Tucker, H. L. Read, Trans. Amer. Electrochem. Soc., 1912, 22, 57.

— 御 通 知 —

本會々議室内の施設が戦後永らく破損状態の儘極めて汚損亂雜となり居りし  
ことに深く御同情下され

會議用卓子 四 基

同大形卓子掛 壹 枚

同 椅子 貳拾五脚

を富士製鐵株式會社々長, 永野重雄殿より御寄贈下さいました。依て本會は  
有難くお受けいたし早速資産原簿に保存登記いたしました。右感謝の意を表  
すると共に會員各位へ御通知申し上げます。